

ねりまの文化財

国指定・練馬区登録天然記念物

練馬白山神社の大ケヤキ

樹勢回復工事終わる

練馬白山神社の境内には、樹齢七〇〇〜八〇〇年と推定される大きなケヤキが二本立っています。この巨木は、源義家が永保3年(一一八三)奥州征伐に出陣する際、奉納した苗木が大きくなったものという言い伝えがあり、昭和15年、国の天然記念物に指定されました。二本のケヤキの根元には、巨大なコブがあり、このコブが老木としての風格を出しています。

ところが、平成元年7月、社殿に近い方のケヤキの根元が浮き上がり、幹が傾きました。区では、応急処置をする一方、二本のケヤキの現状を調査しました。その結果、倒れかか



ったケヤキの幹は、内部はほとんどすべて腐朽して、樹皮だけが生きていることがわかりました。そこで、恒久的な保護対策として幹の上部を切断し、腐った所を取り除き、支柱

練馬区教育委員会
社会教育課
(文化財保護係)
☎ 3993-1111 内線 2766
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

文化財保護推進員が12名になりました

練馬区文化財保護推進員は、昭和63年2月に8名が委嘱されて誕生しました。文化財保護推進員の方々には、区内の文化財について随時巡視を行い、その所在や保存状況を把握し、文化財保護思想の普及啓発活動をすすめていただいています。今回、定数が12名に増え、新しく次の3名の方々が文化財保護推進員に就任されました。

- 荒井道子 元豊玉第二小学校教諭
- 林 勇 郷土史研究家
- 檜山月子 元大泉第一小学校教諭

掛けなどの工事を公園緑地課で行ない、このほど、その全ての工事が終わりました。

この大ケヤキは、明治17年(一八八四)の暴風によって主幹が折れ、その東側に出た支幹が主幹となり、さらに大正9年(一九二〇)の失火が原因で主幹に空洞を生じたといわれるなど幾多の災害に耐え現在に至っています。今回の工事も、将来「平成の大手術」として語られることでしょう。そして、同時に私たちがこの木を大切に想う気持ちも伝わるのではないかと思います。

